

「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」
～思考活動の充実による授業改善～

I 主題設定の理由

変化の激しいこれからの社会を担う子供たちにとって、その社会を生き抜く力、「生きる力」を育むことの重要性はさらに高まっている。学校教育においては、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた児童・生徒の育成を重視し、日々の教育活動を進めていくことが重要であると考え。なかでも学習活動においては、「確かな学力」を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育むことの双方が重要であると述べられている。日々の学習活動を通じて、これらを確実に習得させバランスよく育むために、基盤となるのは「言語に関する能力」としている。このことは、国語科のみならず、各教科に通じる重要な視点である。

本校は、平成28年度までの3年間、山梨県教育委員会「授業改善プラン実践事業推進校」の指定を受け、確かな学力の向上と定着に向けての研究の機会をいただいた。昨年度は初年度として、「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」を研究主題とし、これまでの研究を生かしながら、「～言語活動の充実による授業改善～」に視点を当て、各教科において取り組んできた。

NRT調査・山梨県学力把握調査・全国学力学習状況調査の結果をもとに本校生徒の課題を見つけ、課題を克服するための計画を示した「授業改善プラン」の取組を実践した。また、学習過程についても、全教科共通の過程を目指した『山北スタイル』等を通して主題に迫るべく研究を進めた。

本年度は、昨年度の研究主題「～言語活動の充実による授業改善～」から「～思考活動の充実による授業改善～」とし、思考力を高めるための言語活動等を充実させ、確かな学力の向上を目指して、さらに研究を深めるべく取り組みたいと考えた。

*上記の「思考活動」とは、思考力を高めるための言語活動等

II 研究の具体的取組内容と方法

- 1 授業形態の統一「山北スタイル」（思考力を高める授業形態）
- 2 基礎学力定着の取組
 - ①自主学習ノートの作成
 - ②スコラ手帳の活用（書く習慣・時間を意識する習慣・考える習慣）
 - ③朝学習 → 読書活動の定着、「書くこと」の定着「作文」の実施
 - ④山北サポートタイム → 基礎基本の定着、年間10回実施

またこのほかに、定期テスト前には放課後「自学の時間」として質問を受けての

指導や、自主学習をする時間を確保している。夏休みには、「夏季学習会」として、基礎学習や個別の課題を指導する時間を各学年・各教科で設けた。

3 教材教具の開発・工夫

○授業改善に関わって、生徒の理解を支援する教材の開発と工夫。

・県教委の授業改善プランに関わる教材・教具の開発工夫。

・本校生徒が課題の多い単元の、教材・教具の開発・工夫。

4 教科に関わる掲示物の工夫

・学力向上につながるような、教材（図表・ポスター・授業関連資料等）の掲示、話型の掲示

・教科・学年ごとに共通の教室掲示をしたり、廊下、特別教室等で実施。

5 授業改善プランを生かした研究実践

今年度も、「数学」「理科」「英語」で11/26に「授業改善プラン公開授業研究会」を行った。また、プレ授業として、国語の研究授業を行い、全員で参観し、全員で研究会を開いた。

III 成果と課題

1 成果

- (1) 昨年に引き続き、授業形態の改善を各教科、各自が意識し、導入の工夫や全体、グループ、個人での課題解決の時間を取り入れることができた。
- (2) 基礎学力定着のため継続してきた「自主学習ノート」「朝学習」「山北サポートタイム」により、少しずつ力がついてきている。また、スコラ手帳の活用で時間の自己管理を意識できるようになった。
- (3) 授業改善に向けて、多くの教科でホワイトボードを活用したり、生徒の理解を支援したりするための教具を工夫することができた。
- (4) 今年度は、廊下や特別教室の壁等に教科に関わる掲示物を年間通して掲示し、生徒たちが学習を振り返ることができた。
- (5) 県の指定である「授業改善プラン実践事業」において、「数学」「理科」「英語」の公開授業を行い、地域の学校への授業提案ができた。

2 課題

- (1) 「山北スタイル」をさらに充実させ、全教科、全職員での共通理解を深め、より具体化した「スタイル」を検討したい。
- (2) 「自主学習ノート」の内容を充実させるための具体的な取組や「手引き」の作成を検討したい。また、スコラ手帳をさらに活用し、家庭学習の定着にもつなげたい。
- (3) 課題提示の工夫や生徒の興味関心のわく教材の研究をさらに継続していく。
- (4) 2年間の授業改善プランの検証をし、3年目の「授業改善プラン実践事業」に向けて、各教科で取り組んでいく。

(研究主任 丹澤 基予子)